

(2019年度)

## 5 日本史問題 (60分)

(この問題冊子は21ページ、4問である。)

### 受験についての注意

1. 試験監督者の指示があるまで、問題冊子を開いてはならない。
2. 試験開始前に、試験監督者から指示があったら、解答用紙の右上の番号が自分の受験番号と一致することを確認し、所定の欄に氏名を記入すること。次に、解答用紙の右側のミシン目にそって、きれいに折り曲げてから、受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し、机上に置くこと。
3. 試験監督者から試験開始の指示があったら、この問題冊子が、上に記したページ数どおりそろっていることを確かめること。
4. 筆記具は、HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能、計算機能、辞書機能を使用してはならない。また、スマートウォッチなどのウェアラブル端末を使用してはならない。
5. 解答は、解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで、そのマーク欄をぬりつぶすこと。
6. マークをするとき、マーク欄からはみ出したり、白い部分を残したり、文字や番号、○や×をつけたりしてはならない。また、マーク箇所以外の部分には何も書いてはならない。
7. 訂正する場合は、消しゴムでていねいに消すこと。消しきずはきれいに取り除くこと。
8. 解答用紙を折り曲げたり、破ったりしてはならない。
9. 試験監督者の許可なく試験時間中に退場してはならない。
10. 解答用紙を持ち帰ってはならない。
11. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

1 次の史料A・Bは、いずれも日本の古代に編纂された文献である。よく読んで、以下の問いに答えなさい。なお、表記は適宜改めてある。

【史料A】

越前国加賀郡に、浮浪人の長有り。浮浪人を探りて雑徭に駆使ひ、調と庸とを徴乞ふ。<sup>(a)</sup>時に京戸小野朝臣庭麿といふひと有り。優婆塞と為り、常に千手の呪を誦持つことを業とす。<sup>(b)</sup>彼の加賀郡の部内の山を展転りて修行ふ。<sup>(c)</sup>神護景雲三年歳の己酉に次るとしの春三月の二十六日の午時に、其の長、其の郡の部内の御馬河里に有りて、行者に遇ひて曰はく、「汝は何れの国の人ぞ」といふ。答へていはく、「我れは修行者なり。俗人にあらず」といふ。長、臆り嘖めて言はく、「汝は浮浪人なり。何ぞ調を輸さざる」といひ、縛り打ちて駆せ徭へば、なほ拒み逆ひて、懇びて譬を引きて言さく、「『衣の虱も頭に上れば黒く成り、頭の虱も衣に下るれば白く成る』と。是くの如き譬有り。頂に陀羅尼を載せ経を負ふ意は、俗の難に遭はじとなり。何故ぞ大乘を持つ我れを打ち辱むる。実に験徳有らば、今威き力を示せ」<sup>(d)</sup>とまうして、繩を以ちて千手経を繫へ、地より引き去る。……

○徴乞ふ……徴収する。 ○優婆塞……在家の男性仏教修行者。 ○千手の呪……『千手千眼観世音菩薩広大円満無礙大悲心陀羅尼経』にみえる呪言。 ○懇びて……丁寧に。 ○俗の難に遭はじとなり……世俗の災難に遭わないようにするためである。 ○大乘を持つ……大乘仏教を信奉している。

【史料B】

……「いくつといふこと、さらに覚えはべらず。ただし、おのれは、故太政のおとど真信公、蔵人の少将と申し折の小舎人童、<sup>(e)</sup><sup>(f)</sup>大犬丸ぞかし。ぬしは、その御時の母後の宮の御方の召使、高名の<sup>おおやけのよつぎ</sup>大宅世次とぞ言ひはべりしかな。されば、ぬしの御年は、おのれにはこよなくまさりたまへらむかし。みづからが小童にてありし時、ぬしは二十五六ばかりの男にてこそはいませしか」と言ふめれば、世

次、「しかしか、さはべりしことなり。さてもぬしの御名はいかにぞや」と言ふめれば、「太政大臣殿にて元服<sup>(g)</sup>つかまつりし時、『きむちが姓はなにぞ』と仰せられしかば、『夏山となむ申す』と申ししを、やがて、重木となむつけさせたまへりし」など言ふに、いとあさましようなりぬ。……「文徳天皇と申しける帝は、仁明天皇御第一の皇子なり。御母、太皇太后宮藤原順子と申しき。その後、左大臣贈正一位太政大臣冬嗣<sup>ひすめ</sup>のおとどの御女なり。この帝、天長四年丁未八月に生まれたまひて、御心あきらかに、よく人をしろしめせり。承和九年壬戌二月二十六日に御元服。同八月四日、東宮にたちたまふ。御年十六。……

○おのれにはこよなくまさりたまへらむかし……私などよりずっと年上でいらっしやるのでしょうかねえ。 ○いとあさましようなりぬ……驚き呆れてしまった。 ○よく人をしろしめせり……よく人を見る目をお持ちでいらっしやった。

問1 史料Aは、現存日本最古の仏教説話集に含まれる一篇である。同説話集は、誰を著者とする何という書物か。以下のa群から書名を、b群からは著者名(未詳の場合は「著者未詳」)をそれぞれ1つずつ選び、記号で答えなさい。

[a群]

- ① 三宝絵 ② 今昔物語集 ③ 日本霊異記 ④ 本朝法華験記

[b群]

- ① 景戒 ② 鎮源 ③ 源為憲 ④ 著者不詳

問2 下線部(a)について説明した次の文章には、空欄(ア)～(ク)が含まれる。それぞれにあてはまる最も適切な語句を、下記の語群から1つずつ選び、記号で答えなさい。

戸籍に登録された(ア)から離れ、他所に流浪する者を浮浪人というが、所在は明確で、中央政府の主要財源である(イ)と、労働力提供の代納物である(ウ)を納める。これらを納めず、所在も不明の場合は(エ)とい

う。当初は、浮浪人は(ア)に返そうとしたが、天平年間頃から流浪先で(オ)に登録し、公民とは別の身分として扱うようになった。史料Aに登場する浮浪人の長は、この職務を担っていたものと考えられる。正式な官僧となれば租税は免除されたが、許可なく得度した者をいう(カ)や、在家の修行者らは当然課税の対象であったため、小野庭麿は取り締まりに遇ったのである。しかし、庭麿が修行者として納税を拒否していることから、当時の仏教者には、出家・在家を問わず国務を拒否する気風があったこともうかがえる。庭麿の(ア)は(キ)であったと思われるが、聖武朝には、同地で(ク)が大規模な社会福祉活動を行っており、庭麿もその集団の教化に影響を受けたのかもしれない。

[語群]

- |       |       |      |        |       |
|-------|-------|------|--------|-------|
| ① 河内国 | ② 偽籍  | ③ 行基 | ④ 庚午年籍 | ⑤ 雑徭  |
| ⑥ 私度僧 | ⑦ 修験道 | ⑧ 出挙 | ⑨ 調    | ⑩ 田租  |
| ⑪ 長岡京 | ⑫ 道慈  | ⑬ 逃亡 | ⑭ 浮浪人帳 | ⑮ 平安京 |
| ⑯ 平城京 | ⑰ 菩薩僧 | ⑱ 本貫 | ⑲ 本系帳  | ⑳ 庸   |

問3 下線部(b)について。次の奈良時代創建の寺院伽藍のうち、成立が史料Aの説話集とほぼ同じ頃、8世紀末～9世紀初めに当たる千手観音像を安置するものはどれか。次から最も適切なものを1つ選び、記号で答えなさい。

- |          |          |          |
|----------|----------|----------|
| ① 東大寺法華堂 | ② 唐招提寺金堂 | ③ 興福寺西金堂 |
| ④ 西大寺金堂  |          |          |

問4 下線部(c)について。この元号は、いずれの天皇の治世に使われたものか。次から最も適切なものを1つ選び、記号で答えなさい。

- |        |        |        |        |
|--------|--------|--------|--------|
| ① 聖武天皇 | ② 孝謙天皇 | ③ 淳仁天皇 | ④ 称徳天皇 |
|--------|--------|--------|--------|

問5 下線部(d)について。小野庭麿は、自分を助けてくれなかった「千手経」を縛り引きずり、恨み言をいうが、史料Aで省略してある結末では、浮浪人の長が惨たらしい死に方をする。そもそも、この物語が語られた意図とは、一体何だったのだろうか。次から最も適切なものを1つ選び、記号で答えなさい。

- ① いかにも仏法を信奉していようと、経典そのものを痛めつけた罪は免れないとし、仏教界の綱紀肅正を図ろうとした。
- ② 神仏の意図は計り知れず、人間の善悪を区別することなく罰が降るため、謙虚に慎重に生きねばならないと布教した。
- ③ 在家者の信仰はいかに強くとも仏菩薩には届かないため、しっかり修行をして得度し、正式な僧侶になるよう促した。
- ④ 仏法を信奉する人を陵辱すれば、それは仏法そのものを誹謗するものと等しく仏罰を被るとし、仏教信仰の浸透と教化を促した。

問6 史料Bは、「世継物語」とも呼ばれる歴史物語の一節である。同書は、誰を著者とする何という書物か。以下のa群から書名を、b群からは著者名(未詳の場合は「著者未詳」)をそれぞれ1つずつ選び、記号で答えなさい。

[a群]

- ① 栄花物語
- ② 大鏡
- ③ 小右記
- ④ 江談抄

[b群]

- ① 大宅世継
- ② 赤染衛門
- ③ 藤原実資
- ④ 著者未詳

問7 下線部(e)について。「貞信公」は、史料Bの歴史物語のなかでもたびたび称賛されている重要な人物で、摂政・関白として朱雀天皇を補佐した。『小倉百人一首』には、宇多上皇の大堰川行幸に従った際の一首が採られている。次のうち、その「貞信公」に関する説明として正しいものはどれか。最も適切なものを1つ選び、記号で答えなさい。

- ① 長良の子、良房の養子。陽成天皇を廃して光孝天皇を即位させ、関白に補任。阿衡の紛議などを起こし、外戚関係にない宇多天皇を牽制した。
- ② 基経の子、左大臣。菅原道真を左遷したほか、延喜の荘園整理令の発布、『日本三代実録』の編纂に関与した。
- ③ 基経の子、時平の弟。兄から受け継いだ『延喜式』の編纂事業を完成した。平将門は、かつてこの人物に奉仕していた。
- ④ 忠平の子、実頼の弟。右大臣。この家系は、皇妃となった娘たちが皇子を生み、外戚として栄えた。

問8 下線部(f)は、ある2つの官職の通称である。その官職とは、次のうちどれか。最も適切なものを1つ選び、記号で答えなさい。

- ① 大蔵卿で、征夷大將軍。
- ② 内蔵卿で、征西將軍。
- ③ 蔵人頭で、近衛少將。
- ④ 蔵人部で、衛門督。

問9 下線部(g)について説明した次の文章には、空欄(ケ)～(ス)が含まれる。それぞれにあてはまる最も適切な語句を、下記の語群から1つずつ選び、記号で答えなさい。

平安時代の皇族・貴族男性は、おおむね(ケ)歳程度で初めて冠を被り、成年を迎える。これを(コ)という。史料Bで貞信公がしたように、有力者が冠または(サ)を被せ、新しい(シ)を与えた。女性の成年式は、初めて(ス)を着ける形で行われる。

[語群]

- |       |         |      |      |       |
|-------|---------|------|------|-------|
| ① 3   | ② 11～20 | ③ 25 | ④ 氏  | ⑤ 烏帽子 |
| ⑥ 加冠  | ⑦ 姓     | ⑧ 仮面 | ⑨ 簪  | ⑩ 結鬘  |
| ⑪ 十二単 | ⑫ 踐祚    | ⑬ 名  | ⑭ 袴着 | ⑮ 裳   |

問10 下線部(h)について。道康親王(文徳天皇)の立太子の契機となったある事件について、処罰されて伊豆に配流された人物をa群より、そもそもこの事件を権力確立のために捏造したと考えられている人物をb群より、それぞれ1人ずつ選んで記号で答えなさい。

[a群]

- ① 阿保親王    ② 橘逸勢    ③ 伴健岑    ④ 恒貞親王

[b群]

- ① 阿保親王    ② 藤原順子    ③ 藤原基経    ④ 藤原良房

問11 下線部(i)について。藤原冬嗣と巨勢野足が藏人頭に任命され、その阻止に当たった平城太上天皇の変は、藤原式家が没落し北家が台頭する契機をなした。この事変に至る式家の説明として、誤っているものはどれか。次のうちから適切なものを1つ選び、記号で答えなさい。

- ① 長岡京建設に際して暗殺された種継の遺児である兄妹が、妹が尚侍として仕えた平城太上天皇の復位を狙った。
- ② 百川は、山部王の立太子を実現するため、皇后の井上内親王と皇太子の他戸親王に謀叛の疑いを掛け、謀殺した。
- ③ 百川の長子緒嗣は、桓武天皇の寵を受け、徳政論争において菅野真道に反対、その意見を採用された。
- ④ 内麻呂は、最初の妻である百済永継が桓武との間に良岑安世を儲けると、順調に昇進して自家中興の基礎を作った。

2 次のA～Gの文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

A. (ア)の開山である夢窓疎石に学んだ彼は、建国間もない(イ)に留学して研鑽を積んだ。帰国後、足利義満に重んじられ、儒教の經典などを講義したほか、国書の起草や外交交渉に従事した。『孟子』を講じた際には、新注といわれる朱子の注解も教えた。(ウ)の塔頭鹿苑院の塔主となり、僧録をつかさどった。義堂周信とともに、五山文学の最盛期をもたらしたとされる。

B 東大寺の学僧で三論教学を学んだ彼は、(エ)に渡って天台山、五台山を巡礼した。首都の汴京では皇帝太宗に謁見し、大師号および新印の大蔵経などを下賜されて帰国した。嵯峨野の清凉寺には、彼が請来した梅檀の釈迦如来像が安置され、現在でも厚い信仰を集めている。

C 彼は(ウ)の僧となり、朱子学を学んだが、本場の儒学を直接学ぼうと(イ)に渡ろうとしたが、果たせなかった。慶長の役の際に捕虜として連行



されてきた(オ)との交流などを経て学問を体系化し、京都に京学派とよばれる流派を開いた。徳川家康に進講し、仕官を要請されたが固辞し、少年時代(カ)で学んだが、後に彼の門人となった(キ)を推挙した。

D 彼は(ク)の台州出身の臨済僧であるが、(ク)の皇帝成宗の国書をもって来日したため、警戒され一時幽閉された。しかし、彼の人物、学識に注目した執権北条貞時は、彼を(ケ)から渡来した蘭溪道隆を開山とする(コ)の住持としてむかえた。彼はまた、同じく(ケ)から来た無学祖元を開山とする(サ)や、後に五山筆頭、そして五山別格上位となる(シ)らの住持にもむかえられている。有力な弟子に夢窓疎石や虎関師錬がいて、彼が五山文学の素地を作ったとされる。

E 彼は(シ)の禅僧で、(イ)に渡って研鑽を積んで帰国した。(ス)の城下町である山口で活動したが、後に九州各地を遊歴し、島津忠昌が開創した島隠寺に招かれ、朱子の新注による経書講義をおこない、訓点の方式を定め、『大学章句』を刊行するなど、朱子学の普及に努めた。彼の学問の系統は薩南学派とよばれ、近世の朱子学の源流となった。

F はじめ比叡山で天台教学を学んだ彼は、二回にわたって(ケ)に渡り、臨済禅を伝えて布教を始めた。しかし、比叡山の衆徒の弾圧をうけたため、禅の本質を解いた(セ)を著した。その後、北条政子の帰依をうけて鎌倉の(ソ)の開山となり、また源頼家の援助で京都の(カ)の開山となった。晩年には源実朝の病氣平癒のため、『喫茶養生記』を著して献上した。彼が(ケ)からもたらした茶は九州で栽培された後、(タ)により京都梅尾高山寺に植えられ日本に定着した。

G 彼は幼くして(ウ)に入り、参禅のかたわら画を周文に学んだ。後山口に下り(ス)の庇護をうけたが、(イ)に渡って画境を一層深めた。帰国後、主に山口を拠点に活動したが、諸国を訪ねることも多く、晩年まで健筆を

ふるった。代表作として( ケ )の夏珪の画の構図に学んだ( チ )などが知られる。

問1 A～Gの文章中の空欄( ア )～( チ )にあてはまるもっとも適当な語句を1つ選びなさい。

- |       |        |       |        |
|-------|--------|-------|--------|
| ( ア ) | ① 大徳寺  | ② 天龍寺 | ③ 建仁寺  |
|       | ④ 万寿寺  | ⑤ 妙心寺 | ⑥ 東福寺  |
| ( イ ) | ① 元    | ② 北宋  | ③ 唐    |
|       | ④ 後唐   | ⑤ 明   | ⑥ 南宋   |
| ( ウ ) | ① 建仁寺  | ② 南禅寺 | ③ 東福寺  |
|       | ④ 天龍寺  | ⑤ 大徳寺 | ⑥ 相国寺  |
| ( エ ) | ① 北宋   | ② 南宋  | ③ 後唐   |
|       | ④ 梁    | ⑤ 元   | ⑥ 明    |
| ( オ ) | ① 朱舜水  | ② 李退溪 | ③ 丁若鏞  |
|       | ④ 姜沆   | ⑤ 金富軾 | ⑥ 金忠善  |
| ( カ ) | ① 建仁寺  | ② 天龍寺 | ③ 南禅寺  |
|       | ④ 東福寺  | ⑤ 大徳寺 | ⑥ 万寿寺  |
| ( キ ) | ① 松永尺五 | ② 林羅山 | ③ 南村梅軒 |
|       | ④ 谷時中  | ⑤ 谷秦山 | ⑥ 山鹿素行 |
| ( ク ) | ① 南宋   | ② 高麗  | ③ 金    |
|       | ④ 北宋   | ⑤ 後唐  | ⑥ 元    |
| ( ケ ) | ① 北宋   | ② 唐   | ③ 元    |
|       | ④ 高麗   | ⑤ 遼   | ⑥ 南宋   |
| ( コ ) | ① 瑞泉寺  | ② 円覚寺 | ③ 建長寺  |
|       | ④ 浄智寺  | ⑤ 浄妙寺 | ⑥ 極楽寺  |
| ( サ ) | ① 極楽寺  | ② 浄智寺 | ③ 建長寺  |
|       | ④ 浄妙寺  | ⑤ 瑞泉寺 | ⑥ 円覚寺  |
| ( シ ) | ① 建仁寺  | ② 東福寺 | ③ 相国寺  |
|       | ④ 南禅寺  | ⑤ 天龍寺 | ⑥ 万寿寺  |

- ( ス ) ① 菊池氏                      ② 毛利氏                      ③ 大内氏  
           ④ 少弐氏                      ⑤ 細川氏                      ⑥ 畠山氏
- ( セ ) ① 『正法眼蔵』                  ② 『興禅護国論』              ③ 『沙石集』  
           ④ 『教行信証』                  ⑤ 『元亨釈書』                  ⑥ 『摧邪輪』
- ( ソ ) ① 浄智寺                      ② 極楽寺                      ③ 瑞泉寺  
           ④ 寿福寺                      ⑤ 建長寺                      ⑥ 浄妙寺
- ( タ ) ① 明恵                      ② 俊苧                      ③ 叡尊  
           ④ 貞慶                      ⑤ 慈円                      ⑥ 忍性
- ( チ ) ① 『秋冬山水図』              ② 『松林図屏風』              ③ 『寒山図』  
           ④ 『周茂叔愛蓮図』              ⑤ 『唐獅子図屏風』  
           ⑥ 『大徳寺方丈襖絵』

問2 A～Gの下線部の語句に関する下記の文章 a, bが、両方とも正しい場合は①, aが正しくてbが誤っている場合は②, aが誤っていてbが正しい場合は③, a, bが両方とも誤っている場合は④を選びなさい。

(1) Aの僧録に関して,

- a 幕府が全国の寺院の住持任免などの管理を委ねた役職である。  
 b 初代の僧録は夢窓疎石の甥で弟子の春屋妙葩である。

(2) Aの五山文学に関して,

- a 五山・十刹に拠った禅僧が著した漢詩, 漢文学をいう。  
 b 故実, 解釈などの秘事を口承伝授するという特色があった。

(3) Bの大蔵経に関して,

- a 仏教経典を網羅的に集成したもので, 一切経ともよばれる。  
 b 日本でさかんに印刷され, 朝鮮への主要な輸出品となった。

- (4) Cの京学派に関して、
- a 京学派の系譜から木下順庵が出て、新井白石、雨森芳洲らを育てた。
  - b 京学派に属する伊藤仁斎は、京都堀川に古義堂を創設した。
- (5) Dの虎関師錬に関して、
- a 西芳寺庭園など、作庭の面でも才能を発揮した。
  - b 中国と朝鮮との外交史と関連文書を集めた『善隣国宝記』を著した。
- (6) Eの薩南学派に関して、
- a 垂加神道を創始した山崎闇斎は、薩南学派の系譜に連なる。
  - b 薩摩から『六諭衍義』を献上された徳川吉宗は、薩南学派の室鳩巢に和訳を命じた。
- (7) Fの源実朝に関して、
- a 鶴岡八幡宮での右大臣拝賀の儀式の際、兄源頼家の子公暁に暗殺された。
  - b 和歌を通じて藤原定家とも親交があり、歌集に『金槐和歌集』がある。
- (8) Gの周文に関して、
- a 東福寺の画僧で、長く仏殿の清掃、供物をつかさどる殿司の職をつとめた。
  - b 足利義持の命で、禅の公案を題材とした『瓢鮎図』を描いた。

**3** 次の文章は、江戸幕府の機構について説明したものである。各問いに答えなさい。

江戸幕府の財源は、直轄領から徴収する年貢が基本であった。また直轄の主要  
鉾山の収入や、直轄都市をもうけて商工業者からの利益をあげ、貨幣の鑄造権を

もって絶大な力をもった。

幕府が持つ軍事力も絶大なものであった。将軍直属の家臣団と諸大名が負担する軍役で構成された。〔あ〕と呼ばれた直属家臣のうち、将軍に謁見(お目見え)を許される〔い〕は、享保7年の調査で5205人、お目見え以下の〔う〕は1万7399人であった。平時において、〔い〕は大番・書院番・小姓組番の3番組に編成され、〔う〕は〔え〕組・鉄砲百人組などの諸隊に組織された。これらを〔お〕といい、それぞれ番頭や組頭に率いられた。ほかに〔い〕は奉行や大目付・目付・代官などに、〔う〕は与力・同心など行政面について、これを役方という。〔い〕は多くが知行取であったが、〔う〕はほとんどが蔵米取で蔵米(切米・扶持米とも呼ばれる)<sup>(イ)</sup>を支給された。

幕府の職制についていえば、徳川家康・秀忠時代は、三河以来の譜代門閥(大久保忠隣・酒井忠世・土井利勝ら)が、年寄という立場にあって将軍や大御所の側近を固め、重臣となった。このほか僧の金地院崇伝<sup>(ウ)</sup>、儒者の林羅山<sup>(カ)</sup>、商人の茶屋四郎次郎・後藤庄三郎らが将軍の側近として諮問にこたえた。

江戸幕府の職制は徳川家光の時代に定まった。幕政の中枢にあった重臣は<sup>(ク)</sup>〔か〕とよばれ幕政を統括するようになった。譜代大名<sup>(ケ)</sup>がなった最高職の〔き〕は常置ではなく、重要事項のみ合議に加わった。また、〔か〕を補佐し〔い〕、〔う〕を監督する〔く〕、大名を監察する〔け〕と〔い〕、〔う〕を監察する〔こ〕がおかれた。さらに、関八州以外の訴訟受理などを扱った〔さ〕や享保年間に公事方と勝手方にわかれた〔し〕、江戸府内の行政・司法・警察を管轄する〔す〕(南北2人)の三奉行が実務を処理した。以上の幕府の要職は月番制(1カ月交代で勤務)をとり、重要判断は合議制をとった。また、評定所が設けられ国境訴訟などの裁判を担当した。

地方組織では〔せ〕(1人)が重要で、朝廷の統制や西国大名の監視を行った。京都(二条)・大坂・駿府は重要都市であり、〔そ〕(各1人)と町奉行(各1～

2人)がおかれた。

問1 文中の空欄〔あ〕～〔そ〕にあてはまる語句を、以下の語群から選びなさい。

- |        |       |         |         |
|--------|-------|---------|---------|
| ① 長崎奉行 | ② 番方  | ③ 倉役    | ④ 勘定奉行  |
| ⑤ 太政官  | ⑥ 目付  | ⑦ 宗門改役  | ⑧ 老中    |
| ⑨ 被官   | ⑩ 御家人 | ⑪ 側用人   | ⑫ 徒     |
| ⑬ 遠国奉行 | ⑭ 大老  | ⑮ 牢人    | ⑯ 城代    |
| ⑰ 郡代   | ⑱ 直参  | ⑲ 国役    | ⑳ 京都所司代 |
| ㉑ 慶賀使  | ㉒ 旗本  | ㉓ 勘定吟味役 | ㉔ 寺社奉行  |
| ㉕ 若年寄  | ㉖ 奉公衆 | ㉗ 町奉行   | ㉘ 管領    |
| ㉙ 大目付  | ㉚ 家持  |         |         |

問2 下線部(ア)について、幕府は、直臣の知行地も含めると、日本全体の何分の一の石高を徴収することになったか。①～⑤の記号の中から1つ選びなさい。

- ① 3分の一    ② 4分の一    ③ 5分の一    ④ 6分の一  
⑤ 7分の一

問3 下線部(ア)について、幕府の徴収した石高はどれぐらいであったか。①～⑤の記号の中から1つ選びなさい。

- ① 約500万石    ② 約600万石    ③ 約700万石    ④ 約800万石  
⑤ 約900万石

問4 下線部(イ)について、次に掲げる鉱山のなかで、現在の島根県に位置し、16世紀前半に発見され、朝鮮からの技術を導入した結果、生産量を飛躍的に増大させたのはどれか。①～⑤の記号の中から1つ選びなさい。

- ① 相川金山    ② 伊豆金山    ③ 生野銀山    ④ 大森銀山  
⑤ 足尾銅山

問5 下線部(ウ)について、江戸幕府の直轄都市のなかで、人口がその最大時におよそ40万人だったのはいずれの地か。①～⑤の記号の中から1つ選びなさい。

- ① 水戸    ② 駿府    ③ 大坂    ④ 堺    ⑤ 長崎

問6 下線部(エ)について、大坂に多く設置された蔵屋敷にあつめられた物産(総称して蔵物)の売却代金の保管や藩への送付にあたった商人を何と呼ぶか。

①～⑤の記号の中から1つ選びなさい。

- ① 掛屋    ② 両替    ③ 仲間    ④ 問屋    ⑤ 蔵元

問7 下線部(オ)について、この人物の説明文の下線部について誤りがあるものを①～⑤の記号の中から1つ選びなさい。

僧侶の身分で浄土宗に属し、以心崇伝ともいう。世に黒衣の宰相とよばれ、家康の政治および外交の顧問を務めた。外交文書を作成し、武家諸法度の起草、キリスト教の禁教などにかかわった。また、後水尾天皇が幕府にはからず  
に与えた紫衣を、幕府がとりあげた事件にも役割を果たした

問8 下線部(カ)の人物が息子とともに編纂した歴史書は中国のどの王朝の史書にならったものか。①～⑤の記号の中から1つ選びなさい。

- ① 唐    ② 宋    ③ 元    ④ 明    ⑤ 清

問9 下線部(キ)の人物についての説明文で正しいものはどれか。①～⑤の記号の中から1つ選びなさい。

- ① 博多の豪商の子で長崎に移住した朱印船貿易家。1619年、長崎代官村山等庵に代わって代官となった。
- ② 京都嵯峨の土倉の一門から出た人物で朱印船貿易家。富士・天竜・高瀬川の水路開発にも貢献した。糸割符商人の一人にも数えられている。
- ③ 京都の豪商であり幕府の呉服師でもあった朱印船貿易家。3代目(17世紀初頭)は長崎奉行と関係が深く、糸割符仲間で巨利を得た。
- ④ 摂津平野の豪商で朱印船貿易家。家康の命で銀座の創設に尽力した。
- ⑤ 豪商で朱印船貿易家。コーチ(ベトナム)の阮氏一族の娘と結婚するなど、現地で絶大な信用があった。

問10 下線部(ク)について、この將軍の代に、九州でキリシタン農民らによる一揆が生じた。その開始とされるのはいつか。①～⑤の記号の中から1つ選びなさい。

- ① 1633年    ② 1634年    ③ 1635年    ④ 1636年    ⑤ 1637年

問11 下線部(ケ)について、その中で最も石高が大きかった大名家はどれか。①～⑤の記号の中から1つ選びなさい。

- ① 井伊    ② 本多    ③ 松平    ④ 加藤    ⑤ 水野

**4** 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

領土問題は今日なお、国家・地域間における紛争要因のひとつをなし、ときに武力衝突に至ることさえある。国境がどこに引かれるかによって地下資源の領有や排他的経済水域の範囲が左右される以上、この問題に対して国家最大の関心が払われるのは当然のことなのであろう。

そうした領土問題を日本も抱えていることは、周知のとおりである。そのひと



つに、長年の懸案となっている北方領土問題がある。北方領土とは、北海道の根室沖から連なる齒舞群島<sup>ハボマイ</sup>、色丹<sup>シコタン</sup>、国後<sup>クナシリ</sup>、択捉<sup>エトロフ</sup>の島々(いわゆる北方四島)をさすが、地理的にはカムチャツカ半島南端までの島々からなる千島列島の南部に位置している。まさにその北方四島の領有がロシアとの間で争われているのである。

歴史的にみれば、ロシア帝国の東方進出、さらにその南下政策にともない、ロシア船が千島列島を経て本州の沿海にもあらわれるようになる。それはコロンバス号による〔ア〕の浦賀来航より100年以上も前のことで、こののち日本との<sup>(a)</sup>交易を求めるロシアの一行が日本各地に入航しはじめた。これに対して、幕府は、『〔A〕』を著した〔イ〕の意見を取り入れ、まずは蝦夷地開発を企図し、1780年代半ば以降、〔ウ〕に天文学や測量術を学んだ〔エ〕、さらには〔オ〕らを蝦夷地に派遣した。その結果、〔エ〕は択捉島の北東隣の得撫島<sup>ウルップ</sup>まで足を踏み入れ、18世紀末には〔オ〕が択捉島に「大日本恵登呂府」の標柱を立てている。

1854(安政元)年に締結された〔B〕において択捉島と得撫島の間に両国の国境が引かれたのも、このような歴史的経緯を反映していよう。ちなみに、〔B〕で日露両国の雑居地とされた樺太については、その宗主権を清から引き継いだロシアの伸長が著しく、ついに1875(明治8)年、日本とロシアは〔C〕を締結し、樺太全島はロシア領、得撫島以北の千島列島18島は日本領とされた。<sup>(b)</sup>もっとも、日露戦争後の1905(明治38)年の〔D〕により、樺太の南半分が日本に割譲されている。

このような事情からすれば、北方領土問題など起こるはずがないように思われる。それがくすぶり続けたのは、第2次世界大戦の戦後処理がかかわっている。ひとつは、1943(昭和18)年11月、米・英・中の首脳が、「暴力及貪欲ニ依リ日本国ノ略取シタル」地域から日本を追い出すことを確認した〔E〕にある。1945(昭和20)年7月の〔F〕は、この〔E〕の条項を履行すべく、「日本国ノ主権ハ本州、北海道、九州及四国並ニ吾等ノ決定スル諸小島ニ局限」されることが明記された。しかも、それに先んじて米・英・ソの間で秘密裏に取り交わされた〔G〕では、ソ連への南樺太の返還と千島列島の譲渡を条件にソ連が日本に参戦することが約束された。これを根拠にしてソ連は、千島列島を占領し、自国の

領土として主張するようになったのである。

もうひとつは、1951(昭和26)年9月に締結された〔 H 〕である。そこでは、<sup>(c)</sup>日本が千島列島および南樺太を放棄することが明記されたが、これらの地域がど  
の国に帰属するかは決められていなかった。また、〔 H 〕はすべての交戦国を相手にするものではなく、そもそもソ連はその会議に参加していたものの、これに署名していない。その意味で、日本とソ連の平和条約を締結することが求められるが、その際には北方領土問題の処理が必須であった。

そこでまず、1956(昭和31)年10月、日本の〔 カ 〕、ソ連の〔 キ 〕両首相が会談し、〔 I 〕を調印した。これにより、日ソ間の戦争状態が終結した。併せて、事実上ソ連の占領状態が継続していた歯舞群島および色丹島について、両国の平和条約締結後に返還することが約束されたものの、国後島および択捉島についてはその対象とならなかった。このため、日本政府は、日ソ平和条約の締結と並行して、両国間に北方領土問題があることをソ連に確認させることから着手せざるをえない状況に置かれることになった。

その後も、1991(平成3)年4月には、前年に天皇即位の礼を挙行した〔 ク 〕、ソ連崩壊後の1993(平成5)年10月には、非自民8党派連立内閣の〔 ケ 〕、1997(平成9)年11月には、翌年の参議院議員選挙敗北の責任をとって総辞職することになる〔 コ 〕、さらに、1998(平成10)年11月には、こののち自身の急病により総辞職することになる〔 サ 〕など、歴代の首相がこの課題に取り組んできたものの、今なおその解決には至っていない。

問1 文中の空欄〔ア〕～〔サ〕に入るべき人名を次の語群から選びなさい。

- |         |          |          |
|---------|----------|----------|
| ① 石橋湛山  | ② 伊能忠敬   | ③ 小淵恵三   |
| ④ 海部俊樹  | ⑤ 桂川甫周   | ⑥ 岸 信介   |
| ⑦ 工藤平助  | ⑧ 小泉純一郎  | ⑨ コスイギン  |
| ⑩ 近藤重蔵  | ⑪ 高橋至時   | ⑫ 西川如見   |
| ⑬ 橋本龍太郎 | ⑭ 鳩山一郎   | ⑮ 林 子平   |
| ⑯ ビッドル  | ⑰ ブルガーニン | ⑱ フルシチョフ |
| ⑲ ペリー   | ⑳ 細川護熙   | ㉑ 本多利明   |
| ㉒ 間宮林蔵  | ㉓ 宮沢喜一   | ㉔ 村山富市   |
| ㉕ 最上徳内  | ㉖ 森 喜朗   |          |

問2 文中の空欄〔A〕～〔I〕に入るべき語句を次の語群から選びなさい。

- |                |              |
|----------------|--------------|
| ① 赤蝦夷風説考       | ② 海国兵談       |
| ③ 華夷通商考        | ④ カイロ宣言      |
| ⑤ 樺太・千島交換条約    | ⑥ クラスノヤルスク合意 |
| ⑦ サンフランシスコ平和条約 | ⑧ 下関条約       |
| ⑨ 大西洋憲章        | ⑩ 東京宣言       |
| ⑪ 日ソ共同宣言       | ⑫ 日露協約       |
| ⑬ 日露修好通商条約     | ⑭ 日露約定       |
| ⑮ 日露和親条約       | ⑯ ハーグ条約      |
| ⑰ 北樺聞略         | ⑱ ポーツマス条約    |
| ⑲ ポツダム宣言       | ⑳ モスクワ宣言     |
| ㉑ ヤルタ協定        |              |

問3 下線部(a)の記述にかかわる次の説明のうち、時代順に並べたときに3番目にあたるものを選びなさい。

- ① ロシア海軍のゴローニンが千島列島を測量していたところ、松前奉行支配下の南部藩士に捕えられ、箱館や松前に監禁された。
- ② レザノフが日本人漂流民をともなって来航したが、通商の求めを拒絶され、レザノフの部下が中心になって樺太や択捉島を襲撃した。
- ③ ラクスマンが日本との通商を要求して幕吏と松前で交渉し、これを拒否されたものの、長崎入港の許可を取り付けた。
- ④ ロシア極東艦隊司令長官のプチャーチンが長崎に来航し、日本の開国と日露間の国境の画定を要求した。

問4 下線部(b)の記述にかかわる次の説明のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- ① これが決り決められるまで、日本政府は、開拓使の出張所を樺太にも置いて、ロシアの伸張に対抗しようとしていた。
- ② 樺太の放棄を建議したのは、これが決り決められた直後に官有物払下げ事件で開拓使長官を辞任した黒田清隆である。
- ③ ロシアとの交渉は、幕臣上がりながらいく度も国務大臣を務め、その当時は駐露公使を務めていた榎本武揚があたった。
- ④ 樺太がロシアに領有されることにともない、樺太に居住していたアイヌの人々はすべて北海道内に移ることになった。

問5 下線部(c)の記述にかかわる次の説明のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- ① 濟州島，巨文島，鬱陵島のほか，竹島の放棄も明記されており，これが日韓の竹島領有問題の背景をなしている。
- ② 台湾，澎湖諸島および尖閣諸島の放棄も明記され，のちに中国は，これを根拠に尖閣諸島の領有を主張するようになった。
- ③ 奄美諸島，琉球諸島及び大東諸島については，いずれも米国の施政権下におかれ，1972年に日本に返還された。
- ④ 小笠原群島を含む南方諸島については，米国が信託統治する予定であったが，実際には同国の施政権下におかれた。





